

減量推進員ニュース

茨木市産業環境部
資源循環課
TEL:072-620-1814
FAX:072-627-0289
E-mail:shigenjuncan@city.ibaraki.lg.jp

報告

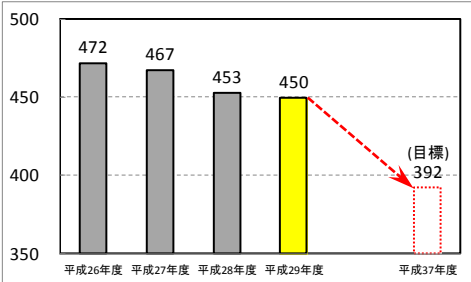
その1

昨年度のごみ・資源化物の発生量と、ごみ処理経費

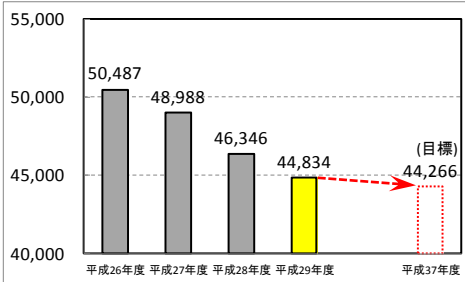


減量計画の基準年度(平成26年度)から昨年度までと、目標年度(平成37年度)それぞれのごみと資源化物の発生量、およびごみ処理経費を整理すると、下のグラフのようになります。

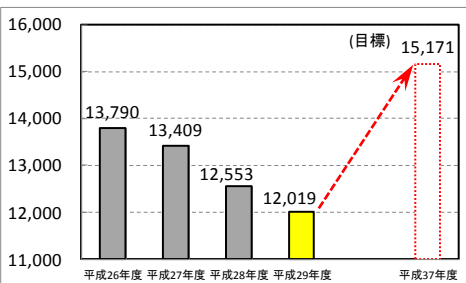
家庭系ごみの量 [g/日・人]



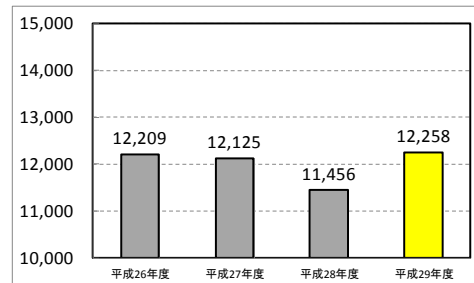
事業系ごみの量 ※収集量 [t/年]



資源化物の量 [t/年]



ごみ処理経費 [円/人・年]



- ・家庭系ごみ、事業系ごみともに前年度から減少となりました。
- ・資源化物は目標に反して減少傾向となっています。原因として、新聞購読数の減少等が考えられます。
(集団回収された新聞の量は平成28→29年度で約400t減少)

・ごみ処理経費は12,000円/人・年程度で増減しており、概ね平年並みの金額となりました。

お知らせ

「ごみの分け方と出し方リーフレット」を多言語化しました!!

ごみの分別・排出方法を記載した「ごみの分け方と出し方リーフレット(保存版)」の外国語版を作成しました。

英語・中国語・韓国語の3か国の言語でそれぞれ作成していますので、本市にお住まいの外国人の皆さまは本市ホームページ*からダウンロードしてご活用ください。

今後転居して来られる外国人の方には、市役所で転入手続きをされる時に配布するほか、資源循環課や各いのち・愛・ゆめセンター等にもリーフレットを配置しており、今後は配信中のごみ分別アプリ「茨ごみプリ」で閲覧できるようにする予定(平成30年度内)もしていますので、お近くにお住まいの外国人の皆さまへのご案内をよろしくお願ひします。

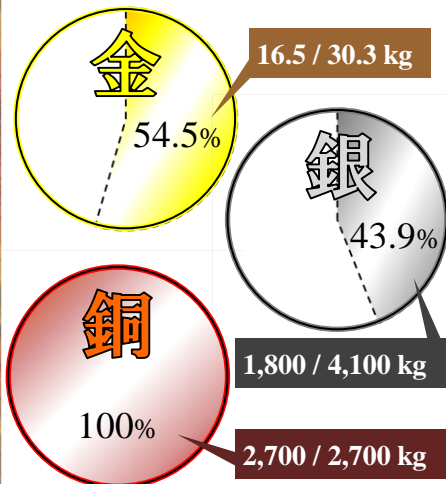
*本市ホームページの掲載場所:
ホーム > くらし > ごみ・リサイクル・環境 > ごみ・リサイクルに関する啓発冊子・パネル・ビデオ等

報告

その2

「みんなのメダルプロジェクト」の達成状況

回収した小型家電からメダルをつくる「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト(主催:東京2020組織委員会)」について、達成状況が公表されました。この取組は平成31年春ごろまで行う予定です。引き続き、皆様のご協力をお願いいたします。



公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 公表(平成30年10月23日)



紹介 カラス対策

ご存知でしたか？

カラスって、こんな生き物なんです！



●視覚・嗅覚

優れた視覚を持っており、本物の肉と食品サンプルの肉を明確に見分けられる程。その一方で、嗅覚はあまり鋭敏ではない。



●知能

記憶力・学習能力が高い。食べ物を見つけた場所を何十ヶ所と覚えたり、仲間と役割分担したりできる。

●食べ物

雑食性で、果実、昆虫、小動物、肉、魚、卵などを食べる。

●活動時間

昼行性で、日中に活動し、夜間は寝床で眠る。

つまり、

- ・ごみ袋の中に肉や魚などエサとなるものがないか、目で見て探します。
- ・一度エサにありつけた場所を記憶し、何度もくり返し訪れます。
- ・日の出からエサを求めて活動します。(早朝は人通りが少なくエサを探しやすい環境)

対策としては、以下の方法があります。

※食べ残しをなくし、生ごみを減らすのも有効です！！



方法①

ごみ出しの時間を守る!!

当日の朝8時までに出す



前夜に出すと、カラスに荒らされやすい!

方法②

食べ物を隠す!!

地味な色のごみを外側にする



生ごみ等鮮やかな色のごみは内側に入れる

方法③

防鳥ネットを“効果的”に利用する!!

隙間なく、ごみ全体を覆う事が大事です!



○全体を覆っている

◎重りを使う

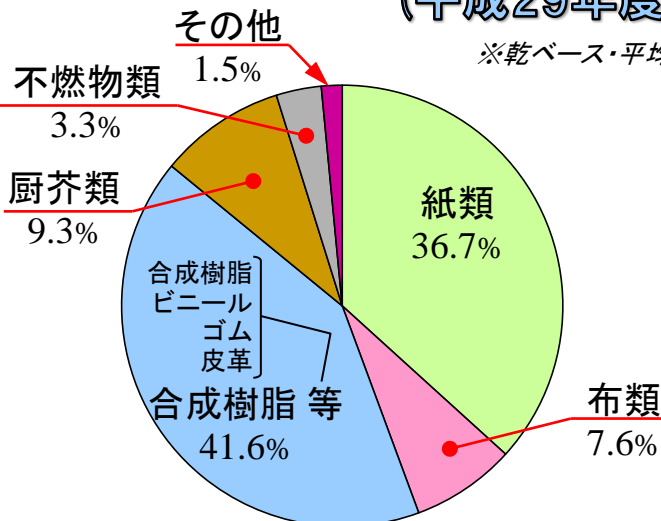
市では、ごみ集積場所を管理している自治会や地域の団体に対して防鳥ネットを貸出しています。

[問合せ] 環境事業課 TEL:072-634-0351
資源循環課 TEL:072-620-1814

報告 その3

ごみ組成分析 (平成29年度)

※乾ベース・平均値



家庭から排出されたごみの**44.3%**が資源として有効に利用できる紙類、布類でした。

ごみの減量、再資源化に向け、分別に更なるご協力をお願いいたします。

報告 その4

3R推進月間 啓発キャンペーン

10/3 (水)



↑ポータブルエコバッグ 啓発グッズ ↓ふせん



推進員の方にご参加いただき、イオンモール茨木で3Rの啓発グッズを配布しました。キャンペーンには「いばらぎ童子」も参加しました。

